

【国語科 2年1組】

国語科では、竹内由美教諭による提案授業『もの語の中に入りこんでみよう』教材文「名前を見てちょうだい」が行われました。この学習の主なねらいは、作品を人物の行動を想像しながら読むこと、読み取ったことを基にして音読劇に表現できることです。



国語科の授業の様子

授業では、本時までの学習で学んできた「会話文や言葉」「人物になりすます」「自分と重ねる」に気を付けながら音読劇の練習を行い、3グループが5場面までの音読劇を行いました。子供たちは、よりよい音読劇を三次の学習にもつなげていくため、友達の声の出し方や動きの工夫の良い点をたくさん見つけたり、自分達のグループと比べて気付いたりしたことを進んで伝え合いました。そして、「声」だけでなく「動き」も付けると場面の様子がよく分かり、作品が楽しくなってくることを確認することができました。

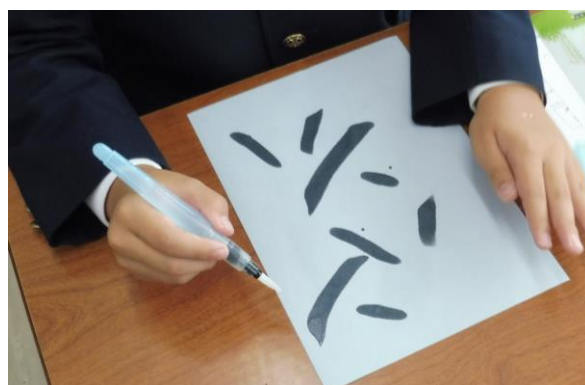
分科会では、挿絵を拡大投影するなどの場面設定は低学年には有効であった、子供たちが友達の音読の良い点をたくさん見つけていたなどのご意見をいただきました。音読劇の表現の個人差については、本人の最善解でよしとするのか、第三者の納得解までを求めるのかなどの意見が出ました。また、共同研究者の小笠原先生より、低学年で物語に入り込む楽しさが分かることが中学年で叙述中心の読みにつながっていくなどのお話をいただきました。

今後も、並行読書を大切にしながら、単元や毎時間の導入、友達との共有学び、本時の学習を次へと生かす振り返りを取り入れた授業実践を進めていきます。

【国語科書写 1年1組】

三谷早苗教諭による提案授業「かたかなのかきかた～とめ・はらい・はね～」が行われました。水書用筆を用い、力の入れ加減や滑らかな運筆を意識して書くことを通して、片仮名の「とめ」「はらい」や画の方向の違いを理解して正しく書くことをねらいとした学習をしました。

授業では、「とめ」「はらい」を意識して、かたかなの「ハ」「ン」の文字を書きました。書いた文字の課題は、自分で考えるだけではなく、近くの子供との話し合いで考えました。また、課題解決に向けて練習するために、水書用筆を



国語科（書写）の授業の様子①

適宜用いるようにしました。水書用筆を用いることで、力の入れ加減や滑らかな運筆を実感することができたようでした。まとも書きの段階では、「とめ」「はらい」を意識して書くことができる子供の姿がたくさん見られました。また、「とめ・はらい」だけでなく、字形やバランスを考えながら練習する子供も見られました。

分科会では、水書用筆の持ち方・活用の仕方について、「大きく書いた方が、より『とめ・はらい』を意識できるのではないか」「水書用筆を使うことで、子供が自分の書く文字に気付ける」などの意見をいただきました。

今後、水書用筆の使い方や「とめ」「はらい」が意識して書けているかを検証していきます。



国語科（書写）の授業の様子②